

# 技術士 2 次試験に合格して



阿彦 宏輝

(あひこ ひろき)

## 勤務先

新太平洋建設株式会社

土木部

〒060-0051 札幌市中央区南 1 条東 1 丁目 2 番地 1

TEL 011-200-6000 FAX 011-200-6005

E-mail ahiko@shintaiheiyoh.co.jp

■ 専門：専門：建設部門(施工計画)

## 1. 自己紹介

私は 1984 年に札幌市で生まれ、2003 年に北海道大学工学部社会環境工学科に進学し、2007 年に新太平洋建設株式会社に入社しました。現在、入社 17 年目となり、国交省や札幌市の土木工事の現場代理人および監理技術者の立場で施工管理の業務を日々行っております。家では二児(6 歳と 4 歳の兄弟)の遊び盛りな子供を育てる父親でもあります。

## 2. 受験の動機

当時、技術士の資格は卒業大学が JABEE 認定されていたため知ってはいましたが、自分の実力では到底合格できない資格だと思い、気にも留めていませんでした。土木の現場監督として入社してからは毎日忙しい日々を過ごし、1 つの工事が終わると、また次の春から工事が始まるといったサイクルを過ごしていました。いつも通り業務を淡々とこなしている中、所属の上司が技術士合格という一報があり、その上司からの技術士の勧めもあり、2018 年に初めて技術士試験に挑むこととなりました。結果として、5 度目の挑戦にして嬉し涙を流す事ができましたが、合格するまでの道のりは苦難の連続でした。

## 3. 技術士試験について

最初の 2 年間の技術士試験は、現場業務が忙しい事を言い訳にし、本腰が入っていなかったのが本音です。まだ、自分の心の中では技術士というのは夢のまた夢だと思っていたからです。しかし、2 回目の試験結果が自分の人生の転機でした。結果は、必須 I・選択 II-1・選択 II-2・選択 III と全てオール B でした。これを見た瞬間、これならイケる(合格できる)と直感で感じました。その後は技術士試験と現場業務、家庭を並行していく生活が本格的に始まっていきます。学生時代とは違い、勉強時間を確保することが難しく、あらゆる勉強方法を模索しな

がら勉強していた事を思い出します。例えば、スマートフォンの IC レコーダーに技術士ノート(キーワード等を要約したもの)や想定問題の論文を録音し、通勤時などの隙間時間を利用して聞き流したり、昼の休憩時には、SNS (Youtube) の技術士コンテンツの動画を視聴するなど若かりし頃には考えられないような工夫をして勉強していました。

社内や社外(sukiyaki 塾の講師)の先輩技術士の方々にも大変お世話になりました。受験申込書の業務内容の詳細、過去問・想定問題の論文の添削指導や口頭試験対策として実施した模擬試験(社内 3 回、社外 1 回)を親身に行って頂きました。

また、家族にも大変迷惑をかけました。試験期間中は育児や家族サービスも満足にできていなかったと思います。当時はこの大切で大変な時期に家族を犠牲にしてまで受験する必要があるのだろうか、子供がもっと大きくなった時に挑戦しても良いのではないかと自問自答する時もありました。しかし、そんな時も前向きな温かい言葉で背中を押して支えてくれた人達がいたからこそ、諦めずに何度も何度も挑戦し、こうして新しい世界に飛び込むことができたと思っています。この場をお借りして改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 4. 今後の抱負

あくまで技術士合格は私の人生の通過点です。今後は技術士という資格を活かし、技術士会での活動や交流を通じ、更なる高みを目指し日々の自身の研鑽に努め、次世代を担う子供達の未来のためにも積極的に社会貢献活動を行っていきたいと思っております。そして、二人の息子達が何事にも果敢に挑戦していく父親の背中を見て大きく育ってくれることを心から祈っています。